

甲 第 号

篠原 雅岳 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	杉江 和馬
論文審査担当者	委員	教授	佐伯 圭吾
	委員(指導教員)	教授	藤本 清秀

主論文

A new nomogram of urinary flow rate and volume based on multiple measurements per healthy adult Japanese men using a portable uroflowmeter (P-Flowdiary®)

日本人男性における携帯式尿流量計(P-Flowdiary®)を用いた排尿量/尿流量に関する年齢階層別ノモグラムの作成

Masatake Shinohara, Kazumasa Torimoto, Chie Matsushita, Daisuke Gotoh, Hisashi

Yoshida, Toshihisa Saka, Yoshihiko Hirao, Akihide Hirayama, Kiyohide Fujimoto

BMC Urology 2022 Aug 25;22(1):130.

論文審査の要旨

日本人健常男性の排尿量と最大尿流量に関して、新たな年齢階層別ノモグラムの作成が長年待望されていた。本研究は、当該教室で開発し汎用されている携帯式尿流量計を用いてノモグラムの作成を目的とした。被験者 101 例での解析の結果、排尿量と最大尿流量の高い相関を明らかにし、二次近似曲線との寄与率が最も高く、膀胱過伸展による虚血再灌流が収縮力低下をもたらす可能性に言及した。さらに日本人男性の信頼性が高い一般化線形モデルによる年齢階層別尿流ノモグラムを作成した。本ノモグラムは新たな排尿障害診断の一助となる有意義な研究成果であり、今後の発展も期待される。

公聴会では、個人レベルの回帰曲線と集団レベルの回帰曲線が異なる理由についての質問に、現状の問題点に加えて混合線形モデルの適用を交えて適切に返答した。今後の臨床研究の方向性については、残尿や膀胱内圧測定データを合わせて評価し、中枢神経疾患での活用を含めた疾患毎のパターン解析の必要性について言及した。普遍性を高める方策と課題についても的確に回答された。

以上より、主論文の内容と公聴会での質疑、および参考論文と合わせて、審査委員すべてが適と判断し、博士（医学）の学位に値する研究であると考えられる。

参 考 論 文

1. Linkage of Lower Urinary Tract Symptoms to Sleep Quality in Elderly Men with Nocturia: A Community Based Study Using Home Measured Electroencephalogram Data

Matsushita C, Torimoto K, Goto D, Morizawa Y, Kiba K, Shinohara M, Hirayama

A, Kurumatani N, Fujimoto K.

J. Urol. 2017 Jan;197(1):204-209

2. 論文タイトルを記載してください。

著者名、掲載雑誌名等を記載してください。記載にあたっては、留意事項を参照してください。

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに泌尿器病態機能制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和4年12月13日

学位審査委員長

臨床神経筋病態学

教授 杉江 和馬

学位審査委員

疫学

教授 佐伯 圭吾

学位審査委員(指導教員)

泌尿器病態機能制御医学

教授 藤本 清秀